

# 三重県立熊野古道センターからのてがみ

“The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center”

2007,VOL.5



## 人 熊野古道センターに集う

熊野古道センターが開館して、春、夏、秋が過ぎ、10ヶ月が経ちました。センターではこれまで特別展や体験プログラムなどたくさんの事業を主催して多くの人にご参加いただいています。

さらに、市民団体や公的な利用も盛んで、内外から訪れる人々の交流の場として賑わい続けています。

県議会による「南北格差対策調査特別委員会」(8月30日)や、「三重県婦人会大会」(10月28日)が開かれ、県下から訪れた参加者の真剣な討論のかたわら、熊野古道を歩いてくださいました。

「第5回熊野古道まつり」(11月3日・4日)では快晴の空の下、2日間で延べ1,000人が芝生広場に踊りの輪を作りました。「第4回おわせ海・山ツアーウォーク」(11月17日・18日)ではスタート地点となったセンターに全国各地から大勢の人が集まり、尾鷲の海と山に見守られてウォーキングを楽しみました。



←尾鷲節のリズムに乗って、馬越峠や八鬼山、天狗倉山の絶景コースへいざ出発！

「海の古道とみなとオアシス シンポジウム」(11月8日)では熊野古道を拠点とした地域の振興を進めようと話し合いが行われました。また「平成19年度国際熊野学会大会」(11月23～25日)には熊野古道の研究者が集まり、さらに研究を深めました。

「火渡り体験！柴燈大護摩と大火定三昧」(11月23日)では尾鷲の空に高らかにホラ貝の音が響き、伝統的な山伏行事を見ようと多くの人が集まりました。



国際熊野学会大会



←八鬼山の荒神堂で行われた神事、護摩焚きと火渡りが再現され、見学者も体験しました。

11月30日現在、本年4月以降に熊野古道センターを訪れた人の数は9万6千人を越えました。センターは熊野古道に関わる情報の収集と発信、そして人々の交流を目的に、多くの方々の活動に役立つよう努力しています。



Pick  
up

## 「観音信仰と岩屋堂の観音石像参り」

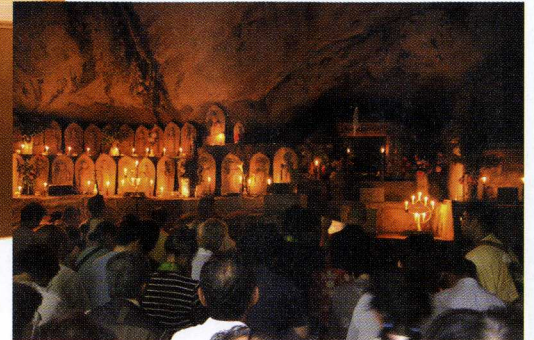
9月29日、西国第一番札所那智山青岸渡寺の副住職高木亮英氏をお招きし、熊野地域の歴史と関わりの深い観音信仰と熊野修験についてお話いただきました。講演の後は各地から駆けつけてくださった9名の熊野修験者による山伏問答の実演があり、昼食後は尾鷲市内の奥まった林の中に佇む岩屋堂へ向かいました。

堂内に三十三体の観音石像が安置されている岩屋堂は『西国三十三所名所図会』に「天狗岩窟」という名で登場しており、岩屋堂前の参道は中世の熊野街道であったため多くの人々が行交ったといわれています。

この日、かつて第一番札所の青岸渡寺を目前に行き倒れた人々の苦難を偲びながら、高木亮英氏と熊野修験者の面々により、伊勢路で命を落とした27名の巡礼者の供養が厳かに行われました。

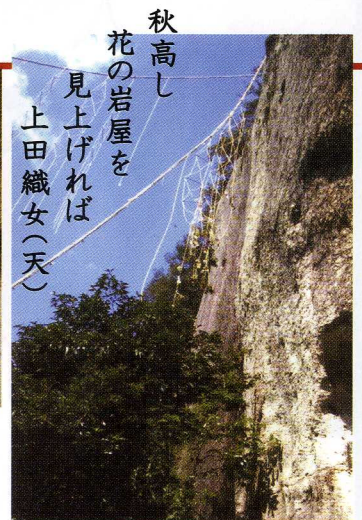
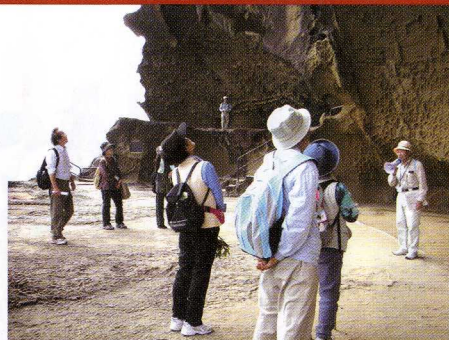


高木亮英副住職



## 「歩いて俳句・元気に俳句 熊野古道大吟行会」

10月24日、NHK俳句でもおなじみの茨木和生先生をお迎えし、まさに秋の高い空の下、熊野古道大吟行会を開催しました。松本峠から鬼の見晴台へ進むコースと、産田神社などの史跡を巡る浜街道コースを吟行しました。参加者49名による合計147句から入選18句が選ばれ、最優秀賞(天)は新宮市の上田織女さんの一句に授与されました。さあ、みなさんも熊野の自然美を俳句で表現しませんか？



(地) いにしへの道への一步草紅葉  
(人) 秋風に打ち合ふ竹の音をきく  
(特選) 渡り蝶色なき風に乗りにたる

平石朝一  
川端久夫  
楠木君子

まめ熊野塾

## Guide &amp; Tips 「曾根の石、江戸城へ旅をする！！」

江戸時代の初め、尾鷲市の曾根で採れた石が江戸城中之門の石垣に使用されたことが、最新の研究によってわかってきました。世界遺産・曾根太郎坂次郎坂の登り口から200メートルほど登ったところには、矢穴と呼ばれる、石を割るためにあけた穴の跡のついた大きな石がたくさんあります。熊野古道センターでは、9月8日に曾根の文化財と飛鳥神社の樹叢を巡るツアーを、9月22日には曾根郷土資料館の森口啓男館長をお迎えし、江戸へ旅をした曾根石の旅を追った講演会を開催しました。



江戸城跡に展示されている曾根石

## 「土方歳三も撮った写真家・田本研三」

「タモトケンゾウ」という名前をご存知ですか？

田本研三は桜の名所・熊野市神川町に生まれ、幕末から明治にかけて活躍、後に「ドキュメンタリー写真の父」とまで呼ばれるようになった人です。研三の生家跡は熊野市の文化財となっており、現代風景写真界の第一人者・竹内敏信氏もそこを訪れ、桜を撮影しています。実はセンター常設展示室の熊野旅曼茶羅図にも研三の姿が！探してみてくださいね。

※田本研三について『熊野の歴史を生きた人々』（企画・発行 みえ熊野学研究会/発売元 東紀州まちづくり公社）に詳しく載っています。ぜひ一読ください！



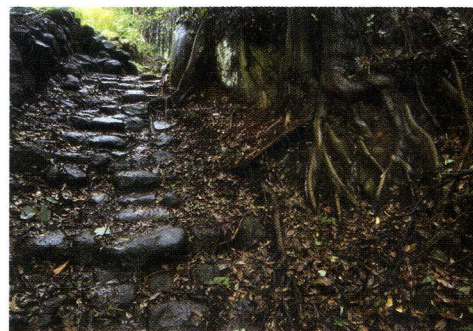
田本研三の肖像写真



## 写真展「竹内敏信の熊野古道」～風景に神宿る～

平成19年12月28日(金)～平成20年2月17日(日)@企画展示室  
入場料無料、12月31日(月)、1月1日(火)は休館

風景写真の巨匠・竹内敏信氏が、熊野古道センター常設展示室のために、約2年をかけて熊野の情景を撮りました。人と自然が深く関わりあってきた文化遺産としての熊野古道と、熊野の生命力を感じにいらしてください。



来場者特典

展示作品の中から最も気に入ったものを選んで投票していただき、一番人気の作品を選んだ方から抽選で合計28名様にプレゼント！  
抽選で3名様 竹内敏信オリジナル原画プリント(四切/フレーム入り)  
抽選で10名様 写真集『竹内敏信の熊野古道』  
抽選で15名様 本写真展ポスター

2/10  
sun

1 開館  
周年

## 「世界遺産子ども大使フォーラム in 熊野古道センター」

2月10日(土)、日光、知床、白神山地、白川郷、石見銀山、屋久島、熊野古道からやってきた子ども大使が熊野古道センターに集結して、お国自慢！

### 50組100人の親子、大募集

※参加費無料、お弁当も用意します。  
※中学生以上の方はお一人、またはお友達とのご参加も可。

三重県知事と馬越峠を歩き、子ども大使と語り合いませんか？

午前9時 紀北町「道の駅海山」集合  
「三重県知事と歩く、馬越峠ウォーク」  
午後1時～ 「世界遺産子ども大使報告会」  
午後5時～ 「シンポジウム・世界遺産を子ども達にどう伝えるか」  
コーディネーター：日高健一郎氏(筑波大学教授)  
パネリスト：子ども大使のみなさん、花尻薫当センター長  
午後6時 終了

2月9日(土)前日祭

サンティアゴ巡礼路と熊野古道  
-もう一つの世界遺産の道に学ぶ-  
「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」(スペイン)を通じて熊野古道の魅力に迫ります。ぜひご参加下さい。

時間：午後2時～午後4時30分  
場所：交流ロビー  
パネリスト：池田宗弘氏(彫刻家) 他  
コーディネーター：川端守氏(当NPO理事)

### その他の体験学習教室

#### 毎土日「その場で作れるひのきアートの世界」

ヒノキを削ってできる「ひのきシート」の体験学習が、来館してその場でできます。旅の思い出に、是非どうぞ！

◇しおり200円、お箸300円(市木木綿の箸袋付は600円)  
木ロボット200円(木のロボット型飾り)  
◇時間：pm1:00～3:00 ◇当日体験・予約可  
◇講師：当センター職員 池田比早子 ◇定員：応相談  
※日程が変更となる場合有。※月別講座の日はお休み。

#### 月別「ひのきアート教室」

「ひのきシート」は魔法の素材！月別でいろいろ作ります。  
◇定員：10名 ◇時間：pm1:00～3:00 ◇講師：池田比早子  
12/16(日)正月飾り 1000円、1/20(日)節分飾り 1000円  
2/17(日)ひな人形 1000円、3/23(日)ヒノキついで 2000円

#### 2/9(土)「料理教室Ⅶ」

地域食材を使う料理教室。今回はお雛様料理を作ります。  
◇参加料：2,000円 ◇定員：24名  
◇時間：am11:00～pm2:00 ◇講師：相可高校 村林新吾先生

### 講座・講演

#### 1/26(土)第5回道中記に読み親しむ会

##### 「八鬼山を越えた巡礼たちの受難」

昔の旅日記などを通じて、熊野古道周辺の歴史に親しむ講座。今回は難所・八鬼山を越えた人々の苦勞に思いを馳せます。  
◇参加料：無料 ◇時間：pm1:00～2:30 ◇定員：50名程度  
◇講師：野田敦美氏(熊野古道語り部友の会)

#### 3/16(日)熊野古道講座

##### 「逢川の源流とシダを訪ねる会」

熊野古道曾根次郎坂・太郎坂の明治道を歩き、シダ植物やトンボの種類が多い自然豊かな逢川の源流を訪ねます。  
◇講師：花尻薫当センター長 ※詳細は決定次第発表します。

### 新しい熊野古道の歩き方

#### 3月 民話の里巡り「赤倉」第2弾(予定)

民話の世界のような風景が今も残る育生町赤倉の里(熊野市)。第二回目は、知られざる古道「カシノト道」を歩きます。  
※詳細は決定次第発表いたします。

＜＜お申込みはお電話か、直接センターにてどうぞ！TEL:0597-25-2666＞＞



夢古道  
おわせ

地域振興ゾーン

営業時間/am9～pm6  
(レストラン：am11～pm2)  
カフェ：am9～11, pm3～6)  
※12/31・1/1はお休みです。  
熊野古道おわせ  
TEL0597-22-1124

### おわせ海洋深層水風呂 おわせ夢古道の湯(仮称)

熊野古道センター敷地内にある、郷土料理バイキングやお土産コーナーが好評の夢古道おわせに、みえ尾鷲海洋深層水を活用した温浴施設がついに誕生します。みえ尾鷲海洋深層水のお風呂は美容と健康に良く、尾鷲の海山を一望するロケーションでゆっくりくつろいでいただけます。お楽しみに！

2008年4月OPEN







# 熊野古道の 鬼やらい

熊野古道からの  
のがみ

## 5 通目

「熊野古道と景勝地、新しいルート開拓を」

川口有三

「熊野古道の山は冬でも緑なんですね。」遠く北海道釧路から馬越峠に見えた旅人がつぶやいた。パウダーのようなサラサラした雪、ダイヤモンドダストが輝き、しばれる冬、そんな北海道の方から見れば、熊野の冬はとても新鮮なんだ。冬の山が緑なんてとても信じられない。我々にとつて熊野の山は、冬でも緑であることは当たり前前の話なのだが、そのことに感動してくれた旅人のつぶやきにむしろ私の方が感動した。我々が気づかない熊野の良さってものがもともとあるのだろう。

「八鬼山と熊野古道センター」「通り峠・千枚田と赤木城」「千枚田と瀨八丁・瀨流荘」、また熊野には日本でも有数の巨樹があちこちに茂っている。豊かな雨と深い森から流れる瀑布を巡る「巨樹と瀑布巡礼」など、色々なコースが組めます。熊野古道語り部もそれに対応できるだけの力量をもっています。熊野古道センターが中心となって新しいルート作りを検討して広くアピールしたいものです。また熊野古道のリピーターの皆様、新ルートが出来たらぜひ挑戦して下さい。お待ちしております。

熊野は古道だけではない。曾根次郎坂太郎坂を越え、二木島から柱状節理の楯ヶ崎を渡船で巡った旅人の感動し興奮しきつたあの顔は忘れられない。北アルプスのようには高くはないが、熊野の山々からの展望は、「春寒し見下ろす海の果てしなき」鈴木牧之が八鬼山で詠んだ句そのものだ。森羅万象の熊野をもっと知ってもらいたい。「熊野古道と〇〇の景勝地」というように、熊野古道を絡ませない新しいルートを開拓しようではないか。まず前述の「曾根次郎坂太郎坂と渡船で巡る楯ヶ崎」「始神峠と豊浦神社・高塚公園」「馬越峠と魚飛溪」「馬越峠と天狗倉山・おちよぼ岩」



次は紀北町の  
西尾寛明さん



かわぐちゆうぞう  
川口有三さん (尾鷲市)  
ふるさと三重の語り部  
熊野古道語り部友の会副会長  
海山郷土史研究会会員  
三重県立博物館がスタッフ

平成十九年十一月二十日に地方自治法施行六十周年記念式典が東京国際フォーラムにて開催され、熊野古道語り部友の会が、天皇・皇后両陛下御臨席のもと地方自治功労団体として法務大臣から表彰されました。これも語り部の諸先輩、語り部を支えて頂いた方々の賜です。今後も精一杯努力する所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

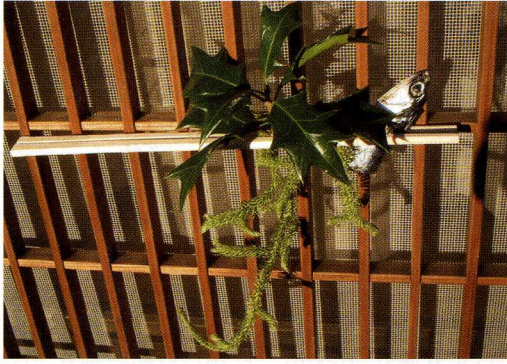
## 花尻 薫からの季節のたよりNo.5 「熊野古道の鬼やらい」節分行事

「鬼ごっこするもの寄っといで。」「福は内鬼は外」鬼は子どもの遊びの中で、また節分行事の豆まきを通じて人の心に邪気として唱えられています。

室町時代にはすでに大豆を炒って撒き、邪気を払う「鬼やらい」が行われていたそうです。立春の前夜に鬼が現れて、禍いをもたらすから悪霊を追放してよい年を迎えようという年中行事は、現代のような邪気の多い年ほど必要かもしれません。

鬼を追い出すには魚の中で一番いやな臭いの鯛の頭と、手でさわると痛くて「ひひらぐ(うずく)」ヒヒラギの小枝を家の入り口にさす風習はどこの地方でも行われています。とことん鬼を追い出せと、鬼しばり(ヒカゲノカズラ<シダ植物>)や女の人の髪の毛を添えたり、大豆に角のある小石を混ぜて撒く地方(熊野市内で筆者が採録)もあります。

「熊野古道の鬼やらい」の邪悪は猪です。古道の土を起こしてミミズを食べたり、地下の竹の子を11月半ばから掘り出して大きな石をいくつも転がしています。古道のお客さんが歩くのに危険です。節分の夜は大声で猪を追い出して下さい！



## おしらせ

☆メールマガジン配信開始しました！熊野古道センターのイベント情報を中心に届けます。毎月1日前後にお送りします。ご登録は、ホームページ画面右側からいただけます。

☆平成19年7月18日に地すべりによって亀裂・段差が発生した熊野古道・横垣峠道は全面通行止となっていました。が、11月10日より一部解除されました。通行止解除区間  
◇神木側登山口～水壺地蔵前(320m)  
◇坂本側登山口～東屋休憩所(600m)  
危険区域内は引き続き立ち入り禁止です。案内看板が設置されていますのでご注意ください。問合せ：御浜町教育委員会 (TEL:05979-2-3151)



- お車: 国道42号線で尾鷲市内→矢の浜南交差点を海側へ曲る→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
- 電車: JR尾鷲駅下車→(徒歩5分) 三重交通「尾鷲駅口」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
- 松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

☆熊野古道センターニュースレター☆  
“熊野古道センターからののがみ Vol.5”  
●発行日: 2007年12月5日(季刊)  
●編集・発行: 三重県立熊野古道センター (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)  
●編集担当: 久保  
●連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市大字向井字村島12番4 TEL 0597-25-2666 FAX: 0597-25-2667 メール info@kumanokodocenter.com HP http://www.kumanokodocenter.com/  
●開館時間: 午前9時～午後5時 入場料: 無料 休館日: 12月31日、1月1日 (その他メンテナンス時休館)